

まちの将来を市民と市職員がともに考える

登別市総合計画第3期基本計画の策定

およそ50年後のまちのあるべき姿に向けた総合的なまちづくりの指針として、平成8年に策定した『登別市総合計画』。総合計画には、基本構想として市が目指すまちづくりの理念やテーマを掲げ、この実現に向け、市は10年ごとに基本計画を策定しています。

今号では、現在、市民や市職員が協働で進めている総合計画第3期基本計画策定の進捗しんぱくについてお知らせします。

広く市民の意見を聞きながら策定



総合計画第3期基本計画（平成28年度～平成37年度）は、市職員による庁内検討委員会のほか、市民にも主体的に計画を検討していただくため、さまざまな市民活動団体からの推薦や公募で決定した41人の市民による市民検討委員会を設置し、市民と行政それぞれの立場から市に必要な施策などを議論するなど、広く市民の意見を聞きながら策定します。策定に当たっては、委員会の下位

組織として、福祉やまちづくりなど6つのテーマに分けた部会（『ぬくもり』、『防災・環境』、『産業躍動』、『都市調和』、『育み』、『まちづくり』）を設置し、市民と市職員が協働で策定作業を進めます。

市民検討委員会では、平成27年3月を目的に第3期基本計画の提言を市に提出することとしており、今後継続して検討を進めます。

市民検討委員会と各部会の会議録をホームページに掲載していますので、ご覧ください。

庁内検討委員会と市民検討委員会の関係

市役所

市民と市職員が対等な立場で議論し策定

市民

【庁内検討委員会】

部会

- 市職員（次長と主幹職）により構成
 - ▶ぬくもり部会
 - ▶防災・環境部会
 - ▶産業躍動部会
 - ▶都市調和部会
 - ▶育み部会
 - ▶まちづくり部会

検討事項

- 各部会において、人口推計や各地区連合町内会からのアイデア資料など、さまざまな資料を用い、計画の文案の作成を行います。
- 各部会の部会長と副部会長は、庁内検討委員会に対比する市民検討委員会の部会に出席し、市民とともに対等な立場で素案づくりに取り組みます。

今後の取り組み

- 市民検討委員会各部会の議論を踏まえ、体系図の修正などを庁内検討委員会各部会で検討し、市民検討委員会の提言を受け、計画素案を作成します。

【市民検討委員会】

部会

- まちづくりに積極的な団体からの推薦や公募により決定した市民で構成（庁内検討委員会と同じ6つの部会）

検討事項

- 市の提案する第3期基本計画体系図案について、市民が主体的に検討し、第3期基本計画に盛り込むべきまちづくりについて提言します。
- 市民は庁内検討委員会と同じ資料を用い、単に事業の要望などにならないよう、今後、登別市が住みよいまちになるために、なぜその施策が必要なのか、理由も検討します。

今後の取り組み

- 平成27年3月を目的に、各部会で議論した市民の思いを提言としてまとめ、市長に提出していただきます。

第3期基本計画は、平成27年度、パブリックコメント（意見公募）の実施などを経て、平成27年第4回市議会定例会に提案する予定です。



市民と市職員が白熱した議論を展開

市民検討委員会
防災・環境部会
部会長 えぐち たけとし 江口 武利さん

10年前、第2期基本計画（平成18年度～平成27年度）の策定にも関わりました。

今回は、市が提示した計画案を、数回の会議を経て市民が了承する形でしたが、今回は、基本計画策定の目標に向かい、市民と市職員がまちの現状や思いを共有しながら、市民も要望するだけでなく、市職員と一緒に実現の手法を検討するなど、部会の参加者全員が各自の知識と経験を基に議論の主役になっています。

防災・環境部会では、高齢化が進む中、登別市の向こう10年間の防災対策や環境保全などはどうあるべきか、春から既に約10回、市民と市職員が時間を忘れ白熱した議論を行っていて、これからも議論は続きます。

この基本計画策定の取り組みや議論が、市民と行政による協働のまちづくりの新しい形になることを期待しています。



▲防災・環境部会



登別市の新たな一歩となる計画に

市民検討委員会
まちづくり部会
部会員 なりた いくま 成田 育磨さん

札幌の大学を卒業後、生まれ育った登別市に戻ってきました。自分を育ててくれた地域のため何かできないかと、登別青年会に入って活動しています。市民検討委員会には、登別市の将来のまちづくりを議論する大切な機会と聞き参加しました。

市民や市職員と議論する場への参加は初めてですが、市民が思ったことを率直に話し、市職員も本音で語ってくれるので、会議は発言しやすい雰囲気で行われています。

まちづくり部会での議論を通し、まちの活性化のためには高齢者の施策だけでなく、若者の定住に向けた施策も必要なことだと感じています。

第3期基本計画を登別市発展の新たな一歩となる計画とするため、自分もできる限り関わっていきたく思います。



▲まちづくり部会

基本計画検討のポイント

◎今後想定される人口減少や少子高齢化など、市を取り巻く状況をしっかりと認識する必要がありませんが、人が少なくなるからといって事業を縮小するのではなく、どのような事業に重点を置く必要があるかなどを十分検討して、『これからも登別市で暮らしたい』、『登別市に住んでみたい』と思えるようなまちづくりに向けた検討を進めています。

◎市民検討委員会は、市民が行政に要望をする場ではありません。市民は市ができること、できないことをしっかりと区別して議論することが必要で、市も市民の声を聴くだけでなく、実現に向けた課題を市民とともに考えるなど、前向きな検討を進めています。

市民も市職員も対等な立場で議論

◎市民検討委員会の各部会は、1部会当たり6人から9人までの市民により構成し、部会の会議には、庁内検討委員会部会の部会長、副部会長、事務局の職員が必ず出席し、市民と市職員が直接顔を合

せて検討しています。

◎検討に当たっては、市が作成した計画案に市民から了承をもらうような手法ではなく、市民と市職員が同じ資料を使用し、共に時間をかけながら、対等な立場で住みよいまちづくりの議論を進めています。

◎市民から提案する施策は、その実現に向けた方法なども併せて提案していただくこととしており、市民も責任を持った発言が求められます。

◎市民検討委員会の各部会に参加する市職員は、市民の施策提言などに疑問があれば、その場で実現に向けた手法などの考えも求めるなど、市民と対等な立場で積極的な議論を展開しています。

第3期基本計画に関する問い合わせは

企画調整グループ

☎(85) 1122

FAX(85) 1108

Eメール: kikaku@city.noboribetsu.lg.jp